



学校だより

令和5年5月31日

6月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「多文化共生」

副校長 山田 太一

先日、ある教室の様子を参観すると担任が子どもを褒めている場面に出会いました。係活動の役割分担をしている時に、ある子が日本語の分からないクラスの友達のためにそばに行って、助けてあげていたようです。クラスの全員にもその行動の素晴らしさを伝えていました。

横浜市には外国にルーツをもつ子どもの在籍数が1万1303人、そのうち日本語指導が必要な子どもが3297人に上るとされています。(2022年5月時点、横浜市教育委員会による)本校においても外国にルーツをもつ子どもの在籍数は100人を超えています。中には、日本語が全く話せない子もいます。

横浜市立学校の国際教室を担当する教員の記事が目にとまりました。「子どもは教員よりもほかの子どもを見ていることもあり、彼らが苦手なことだけでなく、できることもよく知っています。助け合いは、教室に多様な相乗効果を生みます。外国にルーツをもつ子どもはピンチをすくってもらえてうれしいし、相手の状況や気持ちに応じた行動を取ることは、日本人の子どもにとっても大きな学びになります。」(東洋経済オンラインより一部抜粋)

本校での出来事は、記事にあるような場面と似ています。言葉が通じない子がいてもクラスの一員であり、共に成長する仲間です。大人は言葉が通じないという構えてしまうところがあるかもしれませんが、子どもはあまり気にすることなく積極的にコミュニケーションをとろうとします。垣根のない相手を思いやる行動が、言葉の壁を越えた心の交流を生んでいます。また、言葉で困っている人に優しく接することが、誰に対しても分け隔てなく接することにもつながっているように感じます。国際色豊かな本校では、自分とは違う文化や考え方を受け入れることが日常的であり、「みんな違ってみんないい」のように多様性を認め合い、他者を受け入れて共感する思いが育つのだと思います。このような環境の中にいる子どもたちは、きっと、差別のない社会や多様性を肯定する社会を築いていく担い手になってくれることでしょう。

相互理解を深めるために本校では、浦舟町にあるみなみ多文化共生ラウンジと連携して多文化共生事業を行っています。昨年度は、二胡の演奏を聴かせていただいたり、フィリピンのダンスや遊びを教えていただいたりしました。活動を通して、様々な文化にふれ、共に生きていくための意識や理解を深めています。今年度については、保護者の方にも参加してもらえよう企画しています。将来の横浜を担う人材として地域でのつながりが広がるよう、学校としても支援をしていきたいと考えています。